

「国府（こくふ）」とは、おもに奈良時代から平安時代に、全国各地を支配するために設けられたもので、現在にたとえるなら、各都道府県に設けられた県庁のようなものです。上野国（こうずけのくに）（ほぼ現在の群馬県の範囲の古い呼び名）の国府はこれまでの研究によって、前橋市元総社町のあたりにあると考えられていますが、その正確な位置や規模は、まだわかっていません。



元総社小学校から北西へ約400mのところ宮鍋神社（みやなべじんじゃ）という神社があります。この宮鍋神社の南側では、古代の大きな建物の基礎がいくつも発見されています。令和元年度は、新たに3棟の建物を発掘調査しました。

古代の建物の基礎は、地面を掘り下げ、その中に10cmくらいずつ土を入れて、人力でかたくしめることを何回もくりかえす特別なやり方で作られていました。このやりかたで作られた基礎はとても丈夫なので、重たいものを入れて保管する「倉」などを作る時に、この方法が用いられました。

今年度発掘した古代の建物あとのうち、上の写真で一番手前の建物あとは、基礎の一边がおよそ13mの正方形をしています。この建物と同じくらいの建物が、少なくともあと2棟建てられていたことが、これまでの発掘でわかっています。

これらの大きな建物跡が、探している「上野国府」に関するかどうか、今後くわしく調べていく予定です。

早く上野国府が見つかるといいですね。



建物の基礎のようす。何回にも分けてかたくしめていることがわかります。

☆☆ 問い合わせ先 ☆☆

令和元年度の発掘調査成果

い・せ・きワールド in 前橋2020

前橋市教育委員会文化財保護課/令和2年3月発行

住 所 前橋市総社町三丁目11-4

電 話 027-280-6511

FAX 027-251-1700

Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp

い・せ・きワールド in 前橋2020



おわん型の土器の底に「真」と墨で書かれています。



土器に文字が書かれている!?

（上細井中西部遺跡群No.2 5区 出土）

上細井中西部遺跡群No.2では、墨書土器（ぼくしょどぎ）といって、墨で文字が書かれた土器がたくさん見つかりました。上の写真の真ん中の土器は、約1000年くらい昔のもので、「真」という文字がとても上手に書いてありますね。中には記号の様なものが書かれている土器もありました。

さらに、墨書土器の他にも円い（まるい）形をした「硯」（すずり）や、「水差し」といったはるか昔の文房具も見つかっています。

みなさんにとっても、書道の授業でおなじみですね。遠い昔の品々ですが、何だか身近に感じませんか？書かれていた文字の意味や目的は、今後の調査で明らかにしていきます。

令和元年度の発掘調査

上細井中西部遺跡群No.2



5区の航空写真

この遺跡は、赤城山の南に広がる台地の先端部にあります。

近くに観音川（かんのんがわ）や赤城白川（あかぎしらかわ）が流れ、水場があることから、人が生活するのに適した場所でした。発掘調査では約100軒もの竪穴住居跡（たてあなじゅうきよあと）や様々な遺物が見つかり、縄文時代（約4500年前）から古墳時代（約1400年前）、奈良・平安時代（約1100年前）にかけて、人々が暮らしていたことが分かりました。また、集落を管理する役人の存在を示す遺物も多く、地域の歴史を考えるうえで、重要な資料を得ることができました。



住居から出土した土器

発掘調査で見つかった遺物（いぶつ）は、とてもバラエティ豊かで、写真のように千年以上も前の土器でも、ほとんど壊れないで見つかることがあります。



墨書土器

文字かな？それとも記号かな？
みんなだったら、なんて読む？

今でも使えそう！



古墳時代の住居跡

地面を深く掘って作る竪穴住居が集落を形成します。住居の東壁に「カマド」（煮炊きをする場所）を作るのが一般的で、その位置は時代によって変わります。



銅製品

銅で作られた、役人が身に着ける帯のかざりも見つかりました。青緑色に見えるのは、銅がさびているからです。

おっしゃれ〜

主な時代区分

西暦	紀元前 10000	紀元前 200	300	600	710	794	1185	1338	1573	1603	1868	年
	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	明治～	
				古代				中世		近世	近・現代	

前橋城（市役所西地点）

市役所の西側に新しい議会棟を建てるために、調査を行いました。このあたり一帯は江戸時代の前橋城の跡で、城主の住む本丸は、現在の県庁のところにありました。

調査では、前橋城の堀跡やたくさんの建物の柱の跡が確認されました。堀跡は江戸時代の絵図と一致するものもありました。前橋城の堀跡は大変大きく、今回見つかったものは、端の一部分で、堀底は隣の道路の下になると思われます。昔の堀跡が現在道路として使われていることは多くあります。また、絵図では、今回の調査区あたりは、「侍（さむらい）屋敷」と記されていますので、柱の跡はこれと関係するものかもしれません。



調査地の状況

小島田八日市古墳



出土した銅鏡の背面（実際の大きさ）

小島田八日市古墳は、前橋市東部の小島田町に残されていた古墳です。古墳の墳丘（ふんきゅう・古墳の小山のように土を盛ったところ）は大きく削られていたため、古墳の形や大きさは不明です。また、この古墳の本来の主人がほうむられた部分も残っていませんでした。しかし、後から別の人をほうむった穴が残っており、銅鏡、ガラス小玉、鉄器が出土しました。この地域の豪族の墓と考えられます。

この古墳は、4世紀につくられたと考えられ、市内でも最も古い時期の古墳の一つであることがわかりました。これまで、木瀬、荒砥地区などの赤城山南麓では、この時期にはまだ古墳がつかられていないと考えられていましたが、新たな発見となりました。

令和元年度 主な埋蔵文化財発掘調査地一覧

遺跡名	所在地	主な時代
上細井中西部遺跡群No.2	上細井町	縄文～平安
推定上野国府跡	元総社町	古墳・奈良・平安・中世
元総社遺跡群	元総社町	古墳・奈良・平安・中世
西部第一落合遺跡群	元総社町	奈良・平安
前橋城（市役所西地点）	大手町二丁目	中・近世
天神風呂N地点遺跡	茂木町	縄文・古墳
西大室上縄引遺跡Ⅱ	西大室町	古墳
小島田八日市古墳	小島田町	古墳

